

平成22年度第4回安曇野市穂高交流学习センター運営委員会

1	協議会名	平成22年度第4回安曇野市穂高交流学习センター運営委員会
2	日 時	平成23年2月28日 午前10時から正午まで
3	会 場	安曇野市穂高交流学习センター“みらい”地域学習室
4	出席者	中島委員長、本山副委員長、勝野委員、星野委員、野中委員、内山委員、山崎委員、丸山委員
5	市側出席者	丸山教育長、飯沼教育次長、竹内文化課長、山田文化振興係長、高山図書館係長、細萱文化振興係主査、村上文化振興係主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成 23年 3月 11日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - ① 開 会 (竹内課長)
 - ② あいさつ (丸山教育長、中島委員長)
 - ③ 協 議
 - (1) 今年度事業報告について (1月まで)
 - (2) 23年度事業計画案について
 - (3) その他について
 - ④ 閉 会 (竹内課長)
- 2 協議概要
 - (1) 今年度事業報告について (1月まで)

事務局より報告

委員長・補足、質問等についてざっくりばらんに。

“みらい”と“きぼう”のすみ分けはうまくいっているように思う。

“きぼう”の「安曇野ゆかりの芸術家展」を見てきたが、安曇野ゆかりの先人たちのデータベースを基にして展示がされており、芸術館としての特色が色濃く出ていると感じた。

事務局・“きぼう”は開館して一ヶ月も経っていないため、まだバタバタとしているところがあるかと思う。

本来、交流学习センターというのは、図書館を核とした交流、学習の場であるという考え方のもとで運営している。やはり、各館とも特色を出していくことが必要だと思う。

“みらい”の図書館も中央図書館ということで、蔵書数20万冊を目指している。豊科図書館の場合は、6万冊を目指している。また、“きぼう”は、熊井啓監督の記念館が2階の中心となっており、なおかつ豊科近代美術館が隣接しており、豊科近代美術館は安曇野市の中核的美術館を目指していこうという考え方がある。そのため、“きぼう”においては、熊井啓記念館と美術館を中核とした交流学习センターにしていきたい。

委員・“みらい”で行われていた安曇野学講座関連の展示は、どちらも観点を明確に設定しており、来館者も見er視点が掴みやすく非常に良いと思う。

ただ、「安曇野水物語」展示の中のカルタについては、展示が終わった後でもいいから学校等に貸出をした方が良い。よく出来ているからもったいない。活用方法について、もっと考えていただけると更に良い。

委員・図書館の貸出カードを作っていると思うが。

事務局・リライトカードというものを作っている。

委員・リライトカードは、どのくらいの人が作っているのか。

事務局・昨年度の利用者登録数は中央図書館だけの発行数だと4,466件で、今年度の新規登

録数は2,378件となっており、かなりの数である。また、このカードは3年に一度更新が必要になるので、そういった方の再登録も今後出てくるだろう。

委員・・学生が図書館にどれだけ来ているかというのはわからないか。

事務局・統計的に見ると、利用者の半数は児童生徒。なので、一番本を読まれているのは高校生以下ということになる。

委員・・私は、小・中学生に読書の啓発を促す活動をしているが、“みらい”ができたおかげで、読書の啓発に効果があったと感じている。

事務局・全体の利用者の約4割が学生である。

委員長・これは、全国的な傾向なのか。他の館ではどうか。

事務局・読書推進活動の中で、国や県では子供の読書を推し進めようという流れがあるが、子どもたちが一番良く本を読まれていると思う。

委員・・配本業務の中で団体貸出があるが、この中で児童館への貸出は現在行われていないのか。

事務局・年度初めの頃に広報等を通じて周知、募集とも行っているが、申込のある所とない所の両方が出てしまう。

保育園や幼稚園は借りてくださることが多いが、児童館は体を動かすことが多く、読書をする機会というのが割合少ないのかもしれない。

委員・・一年でどのくらい図書資料の購入があるのか。

事務局・大まかな数字だが、例年3千万円を使っている。この金額で、市内全館分購入している。

このうちの、2千万円が中央図書館分で、残りの1千万が4分館に配分されている。

委員・・蔵書数は開館してからどれくらい増えたのか。

事務局・12万から13万しかなかったので、20万冊に向けて増やしている段階である。

逐次刊行物等も買い揃えなければいけない関係で、リクエストにすべて対応できないこともある。

安曇野市では、安曇野市図書館基本計画の他に安曇野市資料収集計画というものがある。総体で安曇野市が40万点という目標数値に達するときの平均的な構成比率というのがある。この構成にそって、各館で集める方向性も決まっている。

(2) 23年度事業計画案について

事務局より報告

委員長・“みらい”について、「穂高の洋画家展」というのは、美術の関連になるが“みらい”でやるのか。

事務局・はい。

委員長・穂高の画家だからということか。

事務局・“きぼう”だとホールを使用することになり、規模の大きな展示になってしまうが、“みらい”の展示スペースであれば、わりとコンパクトなところで、市民のマイ・コレクション展に近い形の展示が可能であると考えている。

委員長・“みらい”ができたことで、これまで実現できなかった様々な取り組みが実現できてきている。安曇野学講座実行委員会をはじめ、様々な団体を上手く集約し、連絡的な体制をどのように作っていくかが今後の重要な課題になってくると思う。

(3) その他

事務局・穂高交流学習センター“みらい”運営委員会の今後についてだが、安曇野市穂高交流学習センター条例に基づき、穂高交流学習センター運営委員会設置要綱というものが作られている。それに基づき、運営委員会を設置し、会議を開催してきたが、新たに豊科交流学習センター“きぼう”が開館したことに伴い、安曇野市穂高交流学習センター条例が、安曇野市交流学習センター条例というものに既に変更されている。したがって、穂高交流学習センター条例に基づいていた穂高交流学習センター運営委員会というものも、安曇野市交流学習センター運営委員会というものに変えた方がいいのではないかということで、3月の教育委員会において、そういったように変える予定である。

安曇野市交流学习センター運営委員会設置要綱を作成し、それに基づき、来年度からは安曇野市交流学习センター運営委員会を設置し、会を開催していきたい。したがって、穂高交流学习センターと豊科交流学习センターという2施設、それぞれの事業内容等についてご意見を頂く機関になるので、ご承知置きいただきたい。

委員の皆さんについては、教育委員会から委嘱する形になるので、またお声掛けさせていただいた際には、お力添え頂きたい。

事務局・安曇野市交流学习センター条例を12月の定例会で承認頂き、施行されているという状態である。一つの運営委員会の中で、将来的には旧5町村に交流学习センターを設置し、まとめていきたいと考えている。

委員・・“きぼう”には、運営委員会は無いのか。

事務局・今は無い状態なので、安曇野市交流学习センター運営委員会の中で“みらい”と含めてやっていきたいと考えている。

委員長・具体的な展開としては、来年度からは安曇野市交流学习センター運営委員会の中で“みらい”と“きぼう”の両方の案について提案されていくということではないか。

事務局・はい。

委員長・2年間の任期も今日で最後である。

各委員に一言ずつ頂いて、終わりとしたい。

各委員より挨拶

委員・・“みらい”のことは知っていたが、施設内にホールがあることは知らなかったということを知人が言っていた。その人は30代なのだが、是非多くの皆さんに施設のことを知っていただきたい。

委員・・展示も切れ間無く、行われていて非常に良い。

また、職員が施設利用に対して協力的で良い。

図書館についても、家族連れが多く、来て楽しい図書館になっている。

今後も期待が持てる。

委員・・非常に展示の質が上がった。せっかくなのだから、地元のマスコミ等に呼びかけ、市民に宣伝される働きかけをすべき。

委員・・安曇野市の文化の中核として、発展していったほしい。

委員・・今後、安曇野市の良さを全国的に発信していったほしい。自然だけでなく、文化の良さも広まっていったほしい。

事務局・本日、改めて皆さんの熱意を感じさせていただいた。「人と文化を育むまち」として、今後とも努力を続けていきたい。今後とも皆さんからは、ご意見・ご要望とともに叱咤激励を頂きたい。

以上